

世界は親神様のお働きで溢れている
感謝を言葉で伝え合えば、
私達の心は成人できる

夕張大教会
教祖百四十年祭三年千日活動方針



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

おやさま百四十年祭 三年千日活動方針

世界は親神様のお働きで溢れている

感謝を言葉で伝え合えば、

私達の心は成人できる

目標

一、心の成人に向かって、

教会毎月ひのきしん

一人でも家族でも良いので所属教会または、上級教会で、親神様への感謝のひのきしんをさせて頂きましよう。

教会でのひのきしんは親神様がお喜びくださり、必ず喜びで返して下さいます。人に親切にする心、自分がさせて頂く心を忘れずに。

二、未来への育成に向かって

三年間、力の限り少年会員を親里でお待ち下さる、おやさまの元へ連れて共に帰りますましよう。

天理教夕張大教会

お知らせ

教祖140年祭全教会一斉巡教 3月5月
月次祭 3月15日(水) 9時30分開扉献饌
春季霊祭 3月28日
春の学生おぢばがえり

会長より皆様へ

護られ、たすかる日の寄進

この世界は親神様にいつも護られており、世界中の子供達をたすけたいのは真実の親である親神様、おやさまです。

私たち道の子は、出会った兄弟姉妹達の心が楽になるよう、ただ自分にできる親切をして、自分から「ありがとう」の感謝の言葉を、沢山使わせて頂きましよう。何事も自分を後回しにして、人さまが先にたすかるように勤めていけば、その先は親神様、おやさまが働いて下さいます。身上、事情に不思議を見せて頂き、人さまから「あなたのお陰で」と言われるようになれば、心が成人した証と存じます。

夕張大教会では、おやさま百四十年祭へ向かう、三年千日の心のお供えとして、この度の活動方針を役員相談の上で打ち出し、全ての信者様方へ向けて、具体的に二つの目標を掲げさせて頂きました。

おぢばへ、教会へと、ご多忙な方も、遠方の方も、この機会に一度でも多く足を運んで下さい。日頃の悩みが解決に向かい、運命がたすかる元は、親神様に自分の一日をお供えする「日の寄進」にあります。苦しい時も、生きていく事にまず感謝して、自分の大切な時間を、少しでも陽気暮らしの為に子供えして頂きたく存じます。親神様はその心を受け取り、必ず喜びで返して下さいます。(2Pへ続く)

(1pより続き)

また、3年間で一人でも多くの少年会員を、おちばへ連れて帰らせて頂きましょう。家族、親族、友人、どちらのお子さんも、どうか将来、人に喜ばれ、自らも幸せな人生を歩んで頂けますよう、共におやさまにお願いに参りましょう。きつと節目ある毎に、おやさまが良い方へと連れて通って下さいます。

私自身が、ひのきしんと育成に自分の時間を全てお供え致し、心の成人をさせて頂きたいと存じますので、皆様どうかよろしくお願い申し上げます。

大教会長 藤田大和



立教18年の年明けは、道内各地で吹雪や大雪に見舞われる事になった。2日の大教会のたすけ推進会議もオンラインへ移行するなど、各所で影響が見られた。大教会も例年と同様に、屋根には数十センチの雪が積もり、建物が埋まって見えなくなる程の雪だったが、春季大祭が近くなると急激に気温が上がリ、前日には神殿や客殿のほとんどの雪が落ちる、という奇跡的なご守護を見せて頂いた。

14日には平屋根で雪が落ちない

客殿付属建物を、青年会を中心に有志で雪下ろしひのきしんをした。気温上昇で重くなった雪に苦戦しながら、軒先の危険な雪庇を一通り協力して下ろすことが出来た。

春季大祭当日、前日までの気温から幾分か冷えたが、真冬にしては穏やかな気温の中、雪もそこそこに、各地より部内信者が集まった。冬休み中ということもあり、少年会員が多く参拝し、寒さの中にも賑やかな様子であった。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められた。コロナ禍の影響未だ冷めやらず、人が足りない所には、それぞれ率先して役割に入り、勇んだおつとめが勤められた。



講話の前には辞令交付があり、青年会の部属分会委員長に新たに3名が任命され、大教会長より所属の会長に辞令が手渡された。

講話には大教会長が立ち、「神殿の右の壁には、『教祖百四十年祭 三年千日』にち／＼に心つくしたものだねを 神がたしかにうけとりている』と私が好きなお

ふでさきの一首を墨書した幕を、本日より掲げています。これはおふでさきの、1711首に含まれない、号外と言われる歌ですね。ものだね、というのは、物事がなりたつていく元、という事で、単純に作物の種という事だけではありません。目に見えるもの、見えないものも含めて、蒔いた種というのは、神様が確かに受け取って下さる、という事です。

私達はおつとめによって心のほこりを払い、綺麗になった心で信者さんや世間の人達と向き合い、関わり、話を聞かせて頂く。相手の思いを聞く中で、辛い思い、苦しい思いを吐き出してもらおう。時には心の汚れをもらう事もあるでしょうが、その時にはまた、おつとめによって、私達は心を綺麗に掃除させてもらいます。そう考

えると、教会というのは、心の洗濯機のような役目を持っているんじゃないか、と思うんです。教会に来られた方には、どうか気持ちをおつとめにして、親神様教祖の前で、普段言えない事、不満や不足も大いに結構ですが、嬉しかった事、どんな事でも話してもらいたいと思います。すつきりした気持ちでまた頑張れるのと同時に、教会の會長さん奥さんも喜んでくれると思います。

1月4日におちばへ帰り、その

日の内に本部在籍者や直属教会長が揃って、真柱様に年頭のご挨拶を致しました。その後真柱様よりお言葉がありました。その中で、「『成人』という即物的に考えて、嫌気が差すという人もあるようであります。」とのお話があり、成人する、という事をすぐに目に見える形に焦ってしまってもいい、という事だと思いました。我々はどうしても分かりやすい数値目標を立て、それに向かって動いた結果を求めがちです。あれが出来た、これをやった、これだけ集まった、その成果が成人ではなく、あくまで親神様教祖のお気持ちに近付かせて頂く事、これが成人なのではないか、という風にお話から感じました。

私自身も成人について思索して参りました。今のところ私が思う成人とは、親神様の教えを人に伝えられる自分になること、ではないかと考えています。これはじつとしていても成人の足取りが進む訳ではありません。大切な事は、おつとめとひのきしんではないか、と思います。お道とは、おつとめとひのきしんによって、神様から不思議を見せて頂ける道であると考えます。世間の人は、何のた

めにおつとめをするのか、と考えましょう。私にとっておつとめとは、神様を信じている証なので



はないかと思えます。心の中で思っている、神様への思いというのを表現するのは、天理教にはおつとめがあるので、とても有難い事だと思います。そして、そのおつとめを見て、神様が喜んで下さって、心を掃除してくれる。

ひのきしんですが、神様を思つて、おちばを思つてする事は、なんでもひのきしんになる、と先日本部の神殿講話でも仰いました。きつと教祖が喜んで下さるから、このへんのゴミを拾わせて頂こう。神様が喜んで下さるだろうから、今日はこの人に一日付き合おう。こんな事もひのきしんになると思えます。お供えをするのも、おさづけを取り次ぐのもひのきしんと本部では教えられます。陽気ぐらしへ近付くために、神様へのご恩返しで何かしたい、と思つて実行すれば、みなひのきしんになる、という事です。何のためにするか、といえば、その先に私達が親神様、

あなたと自然体の信仰を語る

夕張の「キ」になる人

夕張につながる、ようぼくさんの中から、勇んだ活動中の方を、年祭に向かうこの旬に、お話をうかがい、ご紹介いたします。



泣いちゃうんですよね 不思議なことに

錦之旗分教会ようぼく 柴田 豊



48歳 美唄南高、北海道介護福祉学校卒業
錦之旗分教会2代会長、柴田昇治郎氏の甥
現在、札幌市内にて介護職に従事
大教会HPに、未掲載部分を公開(左QRコード)

■神様を感じた瞬間はありますか

最近あったのは、母が出直したときの出来事です。およそ5年前になるんですが、その何年か前から、親孝行をかねて、私たち夫婦で美唄に住む母を連れて、毎年定山溪へ旅行に行っていたんです。でも、その時にどうも様子がおかしかったので、いつもなら札幌駅で電車に乗せて見送るんですけど、心配だから美唄のかかりつけ医に直接連れて行くことに。すると、岩見沢の病院を紹介され、最終的に札幌の病院で診てもらったことになりました。結局、緊急手術になって、母は術後まもなく出直してしまいました。

■本部神殿でおつとめすると涙が出てしまうそうですが

もちろん、子どものころはなかったですけど、社会人になってからです。教会や自宅でのおつとめとは違うですよ。おぢば特有というか、あのお歌を聴くと、涙がポロポロ出てしまいます、不思議なことに。説明はできません。勝手に出るんですから。なんでだろう、感銘しちゃうのかな。

■「ゴミ拾いのきしんのお話を聞かせて下さい」

コロナ禍になったとき、神様からのシグナルだと悟って、自分でもできるゴミ拾いをしようと思いました。でも、当初は感染の危険もあり、妻に止められました。その後、徐々に予防方法もわかってきたので、母の5年祭を4か月後に控えて、「やらなきゃ」と強く思い実行しました。休

■「ハッピを着ていたんですよね？」

日の朝6時から約3時間、市にボランティア用ゴミ袋を支給してもらい、買い物用のキャリーを妻に改造してもらって、それを引っ張りながらゴミを集めました。

ちょうど宗教問題が連日報道されている時期でしたが、もちろん天理教は悪い宗教じゃないし、こんなこともしているんだよっていうアピール、そしてにをいがかねて、ハッピを着てやっていました。すると、一度だけ「私、栗山のものだけども、がんばっているね」と直接声をかけてもらったときは、嬉しかったですね。でも、てっきり栗山の信者さんだと思って教会に問い合わせたんですけど、誰かわからなくて。もし、これを読んでいたら、名乗り出てほしいです(笑)。

■「仕事の中で、お道の教えが生きている部分はありますか？」

私の場合は、それがないと精神的に参ってしまうかな。介護の現場で、人を傷つけてしまった事件を見聞きするじゃないですか。大変なんですよ、やっぱり。徘徊されたりとか、一人で看たりすると大変ですから。それを支えてくれるのは、信仰であり、神様だと思っています。



買い物用キャリーカーを改造した、奥様お手製のゴミ収集車。材料は、すべて100均で調達。

教祖に不思議を見せて頂ける。自分の家族もまた他の家族も助かってもらいたい、幸せに過ごしたい。そのためものだね、ねというの、おつとめとひのきしんです。自分の一日を捧げる、そういう意味からひのきしんは漢字では『日の寄進』と表すことが出来ます。常に見て下さる親神様、教祖に褒めてもらいたい、そんな心からの行動でいいんです。その素直な心が、さんさい心ではないかと思えます。

おつとめ、ひのきしんを一生懸命させて頂く中で、神様に不思議を見せて頂けたら、それを話の台として、いろんな人に話をさせてもらう。それがどんどん出来るようになることが、親神様の教えを人に伝える事が出来る人、という事になるかと思えます。それが、私の思う成人の道だと、思っています。」と話された。

祭典後には大教会長をはじめ役員一同が集まり、3月より始まる各教会の一斉巡教の打ち合わせが行われた。

